

参 考 資 料

第十九卷第十二號 昭和八年十二月

洪水貯溜池で調べた水位と樹木、作物の被害との關係

(Eng. News-Record, Sep. 28, 1933 By C. H. Eiffert)

マイアミ維持区の貯水池は洪水の時のみ水を貯える。多くの洪水は冬期或は早春に起るから、普段はその場所を耕地として利用出来る。貯水池の堰堤が出来てからこの方 13 年の間、耕作中洪水をうけ、作物や樹木の被害があつたのは、たった 2 度しかなかつた。即ち 1924 年 6 月と 1933 年 5 月とである。本年 5 月の洪水後色々観測して、冠水期間と作物の被害との關係を調べた所次の通りであつた。

一番冠水のひとつあつた Englewood では樹木及び作物の被害を洪水中及び洪水後に互つてよく観測した。

樹木は丁度葉が出揃つた時だつたが約 1 週間完全に冠水した。イヌシデだけがこのため死滅したがこれは雑木であるから森林家にとつて寧ろ爲になつた。その他二三枯死したものがあつたが多くは引水後すぐ完全に恢復した。

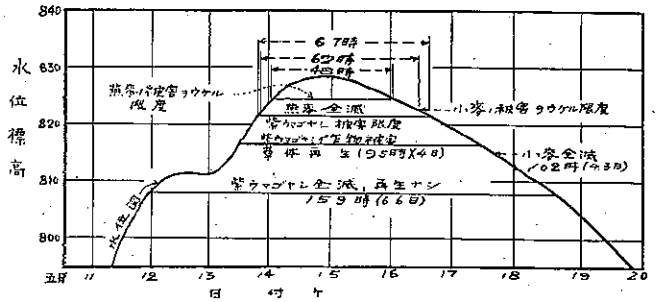
冠水した樹木は楡、綿、柳その他この地方に普通ある色々の樹木であつた。冠水後はそれらの葉は枯れ落ちたが間もなく新芽が出て洪水の被害がわからぬ位になつた。被害地にあつた小麦、燕麥、紫うまごやし等は多く洪水位前後の高さにつくられてゐたが日當長く冠水したため枯死した。

ある標高をとりこれ以下だと作物が枯れたり傷められたりするものとし、これを水位圖(2 時間おきの)と比較すれば、作物に被害を及ぼす冠水の期間を決める事が出来る。燕麥は 48 時間の冠水で被害をうけ、67 時間で完全に枯れる。小麦は 62 時間で被害をうけ 102 時間(4.3 日)で枯れる。紫うまごやしは 4 日以上冠水をうけると一時的に傷められるが恢復する。6.6 日以上だと枯れる。

(伊藤 剛 抄譯)

洪水位—作物被害圖

Ohio, Miami, Englewood 貯水池 = 於て (1933)



ミルウオーキ促進汚泥法の擴張計畫成る

(Eng. News-Record, July 27, 1933)

同市は夙に促進汚泥法に依る汚水處理を實行して居るのであるが、その設備は 1 日 85 M. G. を處理し得るのであつて現在已に 1 日 25 M. G. の超過汚水は直接ミシガン湖へ放流して居り、更に 1935 年には直接放流が 39 M. G. に及び 1945 年には 70 M. G. にも達する見込みである。乃ち今回の計畫では 1 日 70 M. G. の汚水を處理すべき促進汚泥設備を増設するのである。敷地は現在の東側、湖面の埋立地を使用し已に萬端の準備も完了した。今回の擴張は過去 7 箇年の実績並に經驗から得た知識を土臺として設計されたもので少しくその要點を摘録して見たいと思ふ。